

新パキスタン大使着任・パキスタン家庭健康教育プログラム表彰式への協力要請

12月6日、ファルーク・アーミル大使にかわり新たに着任されたアサド・マジード・カーン（博士）新大使にお会いするために、小川E P P委員長・大村会員・當間会員、そしてAMD Aの岩本さんがパキスタン大使館に伺いました。

カーン大使は、1990年に外務省に入省され、日本にて語学研修を受けた後、在東京パキスタン大使館に赴任されました。九州大学では、国際経済法及び国際商法博士号も取得され大変日本語の堪能な方でした。ご出身はラホールで、大使曰く「ラホールを訪れていなければパキスタンに来たことにならない。」というほど素晴らしいまちですとのことでした。

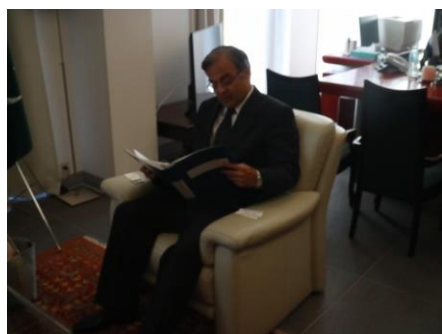
小川E P P委員長より、茅ヶ崎中央R Cが、パキスタン家庭健康教育プログラムを始めた経緯を説明し、これまでのE P P委員会の活動を一冊にまとめたファイルをお渡しいたしました。大使には興味深くきいていただき、所々で質問を頂きました。地域のコミュニティーにリーダーに趣旨を理解頂き未婚女性に、ポリオを含む健康教育について、現地N R S Pの協力で学びの場を提供していますという説明の際には、いま、活動をされているタッタでも、就学が進んでいるので学校という場も今後は家庭健康教育の場にして行ってはどうでしょうかと、アド

バイスもいただきました。また、ポリオ撲滅には、日本政府の援助・ロータリーとゲイツ財団からの支援についての感謝のお言葉をいただきました。また、政府職員としてかかわってきた経緯より、ポリオを含むワクチン接種のスタッフには、情熱をもって取り組むボランティアもいれば、それを仕事としてかかわる人もいて現場には、温度差があることも示唆頂きました。

パキスタン家庭健康教育プログラムも当初からの予定であった三年間の支援活動も終えて、12月15日にカラチのマリオットホテルでプログラム参加者の中でも優秀な方々の表彰式を行う際に、ポリオ根絶担当首相補佐官のアイシャ・ラザ・ファルーク上院議員への出席にぜひご出席いただきたくご協力をお願いしたい旨改めてカーン大使に依頼をいたしました。ファルーク上院議員は、茅ヶ崎中



小川委員長より活動報告書が手渡されました



資料を熱心に読んでいただき、いくつもの質問やアドバイスを。

中央R C会員が2014年にパキスタンに視察に行った際に、パキスタンでのポリオ根絶についていくつもアイデアをくださり、今取り組んでいるパキスタン家庭健康教育プログラムに貢献頂きました。カーン大使からは正式な招聘依頼文を頂ければ、さっそくご協力いたしますとの回答をいただき後日、峯山会長と小川E P P委員長名での依頼状をお届けすることになりました。



大使執務室で参加者と共に

内田会員の三鈴の和菓子を贈呈

AMD Aからは、新庄のお米を贈呈

